
僕の先輩はグラッブラー

桃井 ヨシキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の先輩はグラップラー

【Nコード】

N0440Y

【作者名】

桃井 ヨシキ

【あらすじ】

スポーツに愛想を尽かしていた。高校入学を機にスポーツから縁を切って文化系として生きよう。陸は決めていた。

藤原瀬奈、通称寝技姫、彼女と会ったことで陸はまたスポーツの世界に戻ってきた。

この話はそんな二人の日常を淡々と描いた物語。

プロローグ 先輩は今日も強いです

「さて、陸くん、どうする？」

僕の上に馬乗りになつた瀬奈さんは不敵な笑みを浮かべている。真つ黒い道衣を身に纏い、青色の帯を締めていた。

傍から見たら誤解されかねない状況であるが、今はそんなことを考えている余裕など無い。どうやってこの状況を打破しようか。それしか考えていなかった。

僕は男、瀬奈さんは女、技術の差はあっても力の差は歴然としていいる。だったら力任せに行くしか無い。

片足を立て力任せに背を逸らす。ブリッジの形になると、瀬奈さんの道衣の袖口を掴んだ。そのまま瀬奈さんの体を振り落とすように地面に叩きつける。

瀬奈さんは素早く反応し、僕の腰の後ろで両脚を組む。僕は両手で帯をつかむ。クローズガード、先刻よりは状況は改善した。

このままパスガード、そう思った瞬間だった。瀬奈さんが僕の道衣の左袖を両手で持っていた。渾身の力が籠った引きで僕の左手は帯から離れた。姿勢が崩れ前のめりの体制になる。

しまったと思ったときは手遅れだった。瀬奈さんは腰の後ろで組んだ足を解き、僕の首に巻きつけてきた。

そして両手で頭を抱え込む。後頭部に瀬奈さんのふくらはぎが当たり、頸動脈は太ももで締め上げられていた。三角絞めの完成、脱出するか否か。

脳に送られる血液が少なくなっている。頭がグラグラしてきた。ここで取るべき行動は一つ。

瀬奈さんの太ももを叩き降伏の意思表示をした。瀬奈さんは足を解き起き上がる。僕はそのままマットの上に倒れこんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0440y/>

僕の先輩はグラップラー

2011年10月30日04時29分発行